



のっぽの手

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル
TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218
E-mail center@f-npo.jp
URL <http://www.f-npo.jp/>

市民活動の連携パワーを実感

ふくしま市民活動フェスティバル(2.7)を終えて

理事長 清水 修二

昨年度の市民活動フェスティバルを主催した県北NPOネットが「発展的に解消」し、あとは県北ネットの役割を本センターが担うという決定が昨年なされました。である以上、今年度のフェスティバルには全力投球する責任があると思われました。それで、1日かけてパフォーマンスを繰り広げるといふ、やや誇大な企画を提案した次第です。実行委員会方式をとり、本センターは実質上の事務局を担いました。

真っ先に福島、伊達、二本松の三市役所を回り、パネル討論会への市長の出席を求めてオーケーの返事を得たのが、実行委員会のモチベーションを高めたと言えます。選挙のダルマは最後に目を入れますが、イベントの目玉は一番最初に入れるのがコツかもしれません。

実行委員長をしていて最も嬉しかったのは、実行委員会への参加者が少しづつふえていったことです。「様子見」の団体が離れて行ってしまおうのではないかと心配しました。そういう団体もないではありませんでしたが、直接ステージに上がる予定がないのに、最後まで会議に出席して下さった団体さんもありました。

入場料を取るか取らぬかについてなど、実行委員会ではいろんな議論をしました。PR方法について出された提案はすべて実施しました。メディアのほうから声がかかる場合もあって、元気づけられたものです。当日のイベントそのもののプロデュースは理事の齋藤美佐さんがきっちりリードしてくれて、私も大変勉強になりました。サウンドを担当して下さった「ふくしま飛行協会」の齋藤喜章さん、お楽しみ抽選会のアイデア提起と準備をして下さった「ふくかんねっと」のチョン・ヒョンシルさん、三市長討論会の調整で苦勞された牧田実理事、適切なアドバイスと司会をして下さった早川哲郎さん、ボランティア団体に呼びかけをして下さった齋藤孝雄さんなど、多くの人々に支えられたイベントでした。

当日プログラムは445部配布されましたので、子どもさんを含めれば確実に500名を下らない参加者です。市役所の協力もあって三市長の討論会はほぼ満席でした。討論そのものもいろんな意味で収穫があったと思います。そのまとも含め、今年度中に報告書を作成します。

イベントを成功させるというのは、大変なエネルギーを要するものです。有名タレントを呼んでくるわけでもなく、蓄積も実績もないところから創り上げるのは大仕事です。しかしやってみて知ったのは「うまくやればできる」という単純なこと、言い換えれば「やれる条件はある」ということです。それからもうひとつは「コラボレーションの力」です。バラバラな状態では力にならないが、1つになれば相当のことができることに、私たちは自信を持っています。そして市民活動の場合、コラボレーション力を生み出すのは何よりも共感や共鳴、一言でいえば「意気に感ず」という気持ちです。

それから今回の経験でつくづく思ったことがあります。私たちは、それぞれがいろんなイベントを行う場合、もっとお互いに協力すべきではないかということです。翻訳家の池田香代子さんは「私たちは非力なのではない、微力なだけなのだ」と言っています。自分のことだけで精いっぱいという事情は分かりますし、まずは自力でという理屈も間違っていないと思いますが、助け合えばお互いにもっと楽ができると思うわけです。そして中間支援NPOである本センターこそが、そうしたイベント・コラボレーションにおける「頼れる存在」になるべきだと思います。



“パートナーシップ2008”に携わって

常務理事 齋藤 健

2008年度の東北労働金庫様との提携事業“パートナーシップ2008”を佐藤副理事長と担当しました。東北労働金庫福島県本部の担当者M氏と一緒に、仙台における3回の会議に出席し、福島県内における活動の方向付け、全体のスケジュール、パンフレットの原稿作成等を行い、また、9月以降は新聞社への訪問、各所へパンフレットの配置、さらには申込希望者と受け入れ団体との連絡、確認等が主たる内容でした。

“パートナーシップ2008”は一般の方（労働金庫様の会員、会社員を主として）をボランティア活動に入り込む切っ掛け作りを東北労働金庫様と東北6県のNPO団体と一緒にやって行う事業であり、今年で2年目となります。昨年度の反省を踏まえまして、全体のスケジュールを今年は早めて上手く行ったと思われます。

東北6県で7つの中間支援NPO団体と各県の労働金庫様が一緒に協力して行うため、他県の行事への取り組み方、アイディア、その他の情報が共通のものとなり、相乗効果が期待できます。結果として、東北6県で36名の方々（12月26日まで）の申込みがあり（昨年度実績は11名）、各県の協力団体に於きましてボランティアの活動体験を行いました。

福島県の場合は3名の方（昨年度実績は0名）の申し込みがありましたが、実際には2名の方がボランティア活動体験を致しました。（福島市、南相馬市で各1名ずつ）

この事業の広報活動の主体は東北労働金庫県内各支店のパンフレット配置、各種研修会での紹介となっていますが、申し込んで来られた方は新聞記事を見て来られた模様です。今後いろんな行事の広報のあり方に大変に参考になることと思います。

今回の事業を担当しまして感じましたことは大きく2つの事柄です。

まずは、ボランティア体験の申込者は、申し込んでみたもののボランティア活動体験を行うことに非常に不安を感じていることです。

数回以上にわたり、申込者と電話で話しをしまして、とにかく、一度、現場に入ってみて、不具合があったときには全てのトラブルを引き受けるので心配しないで行ってみたいと忍耐強く話し合いを行いました。

もう一つは東北の他県の中間支援NPO団体の方々と話し合いの中で、どんな活動を行っているかとかどんな事で悩んでいるかとか、というような情報交換が出来たことであります。

その中で感じましたことは私どもは少し後ろを走っているのではないかということです。もっと中間支援としての目標を大きく持ち、活動を活発にしてゆく必要があると感じました。



統計数字の背後の現実に思いを馳せる
NPO研究会「NPOはもう増えない」に参加して

NPO法人ふくしま飛行協会
斎藤 喜章

サラリーマン時代（昭和46年から平成17年）に携わった仕事（ホストコンピュータによる各種業務）をしてきたが、統計とか有意差の検定などいくつか経験をさせてもらった。このような実践的な経験は、第50回NPO研究会「NPOはもう増えない 市民セクターは大丈夫か」星野珙二氏（福島NPOネットワークセンター理事・福島大学教授）のお話を興味深く聞かさせて頂くための予備知識になった。そして内容の一角でも理解できればありがたいと思った。

星野先生は「今回の研究会のテーマで示されたように、日本（福島県も含む）のNPO法人数の発展過程は収束の傾向性を示している（ロジスティック曲線）。そして『NPO側のプロフェッショナル意識や真に必要な行政政策』が、更なる発展を期するために求められる。」と言っていると私なりに理解させていただいた。また、統計や平均の世界では、個別具体的な重要と思われる活動や政策が見えなくなっている場合もあることもお話の中で照会されている。

私が仕事をとおり経験してきた捉え方として、統計の対象になったアンケートの一枚一枚に個別具体的な現実があり、そこに発展の兆候を見つけ出す地道な作業も必要であるのではないかということです。私たちの住む街という共同体の中で何が求められているのか。そして何をしなければならないのか。更にはNPOとは何なのかを問いかけられた研究会であった。

NPO会計ひとくちアドバイス③ 「決算とそれに関わること」

ITコンサルティング早川事務所
代表 早川哲郎

3月に年度末を迎える法人は多いと思います。事務局にとって決算や総会の準備で忙しい時期の始まりです。

NPO法では「毎事業年度初めの三月以内に」事業報告書等を主たる事務所に備え置くことを定めています。事業報告書や決算報告書は定款の規定で総会の議決事項ですので、定款で特に総会の開催日を決めていなければ、3月31日が年度末の法人は6月30日までに総会で承認を得る必要があります。

しかし税の申告が必要な場合は要注意です。消費税は年度末から2ヶ月以内申告ですので、決算承認の前でも申告しなければなりません。法人税も原則は2ヶ月以内に申告ですが、申請をすることによって1ヶ月申告期限を延長することができます。ただし、納付期限は延長されませんので、2ヶ月を過ぎて納付したときは利子税がかかる場合があります。

また、NPO法人は資産の総額を登記しなければなりません。こちらも原則は2ヶ月以内に登記することになっていますが、法務局に聞いたところ総会の開催日から2週間以内に登記すれば良いそうです。

税の申告・納税や登記は、期限を過ぎると加算税や過怠料がかかる場合がありますので、それぞれの期日に注意して早めに準備しましょう。

福島市市民活動サポートセンターから

平成20年度の講座はおかげさまでたくさんの方にご参加いただいています。また講座を初めて受講されるという方も多く嬉しい限りです。

2月からは「市民活動ステップアップ講座」がスタートしています。そして3月には「ふくサポ講演会」を予定しています。ぜひご参加ください。

「市民活動ステップアップ講座」

第3回 3月14日(土) ウィズもとまち大会議室 13時30分～15時30分
「インターネットって本当に効果があるの」 定員25人

講師 安齋 憲二 氏 (シティ情報ふくしまデジタルネットワーク事業部長)

第4回 3月21日(土) ウィズもとまち大会議室 13時30分～15時30分
「イベントを成功させる」 定員25人

講師 斉藤 喜章 氏 (NPO法人ふくしま飛行協会理事長)

「ふくサポ講演会」

3月 7日(土) ラヴィバレホール 13時30分～15時30分
「元気はつらつコミュニティビジネス」 定員50人

講師 下村 一裕 氏 (NPO法人A. R. S副理事長)

3月28日(土) ラヴィバレホール 13時30分～15時30分
「100円商店街ネットワーク」 定員50人

講師 齋藤 一成 氏 (NPO法人NPO-AMP局長(代表))

詳細は福島市市民活動サポートセンターへお問い合わせください。

〒960-8044

福島市早稲町4-16 ラヴィバレ一番丁3階

電話 024-526-4533

ファックス 024-526-4560



「のっぽの手」では誌面充実の為、理事、職員はもとより、会員様、各団体様よりの投稿をお待ち申し上げております。当センターへのご意見、日頃の活動に関する事、はたまた「よもやま話」などございましたらぜひ下記宛にお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。

ふくしまNPOネットワークセンター事務局 <http://www.f-npo.jp/>

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビルB1

TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218

E-mail:center@f-npo.jp

福島市市民活動サポートセンター <http://www.f-ssc.jp>

ふくしま情報ステーション <http://www.machi-fukushima.jp/>

